

第2回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 議事要旨

日時	令和3年4月27日（火）午後3時30分～4時30分
場所	武蔵野総合体育館大会議室
参加者	委員長、委員17名、事務局3名 計21名

- 配布資料
- 第2回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 次第
 - 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会（第2回）名簿
 - 第1回 ICT活用推進リーダー連絡会（4月15日）報告（資料1）
 - タブレット型パソコン配付時の指導例（資料2）
 - 武蔵野市学習者用コンピュータマニュアル Chromebook 編（資料3）
 - 武蔵野市学習者用コンピュータマニュアル iPad 編（資料4）
 - 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 議題（案）（資料5）
 - Google フォームによる欠席連絡について（案）（資料6）

■内 容

1 開会

資料の確認

2 自己紹介（今回から参加する委員）

3 事務局から

(1) ICT活用推進リーダー連絡会の報告（資料1）

(2) 現在の進捗状況について（資料2～4）

（事務局）

- ・ 資料2は、学習者用コンピュータを配付する際に、児童生徒に対して必要となる指導事項について、指導課が指導例を作成したものである。各校において、これを参考にご指導いただけるよう配付してある。
- ・ 資料3及び資料4は、学習者用コンピュータを使用するにあたり、各種サービスへのアクセス方法、ログイン方法及び参考となるマニュアルの紹介等をまとめたマニュアルである。
- ・ 資料とは別に、保護者会等で保護者が視聴することを想定し、学習者用コンピュータ配付にあたって、教育委員会で保護者会向け動画を作成した。多くの学校でご活用いただいたと聞いている。Google のシステムを使用して、保護者のスマートフォンからも視聴できるようになっている。

4 協議

(1) 今後の委員会の議題について（資料5）

（委員A）

- ・ 当委員会では、授業での効果的な活用、やってみてうまくいかなかった点も含めて共有し知見を積み重ねていただきたい。
- ・ ICT 活用推進リーダー連絡会において、検討委員会で検討すべきだと思われる内容のご質問があったため議題に付け加えた。特にパスワードの取り扱いは今後課題になると思われる。当初、教育委員会としては、何かあったとき対応しやすいという点から初期パスワードを変更しないという運用を考えていた。しかし、情報モラル及びデジタル・シティズンシップ教育の観点から、各自でパスワードを管理・変更していく方が趣旨に合っているのではないかとのご意見があった。

（委員B）

- ・ プログラミング教育を進めるにあたってスクラッチ、MESH などの学校も利用していたはずであるため、入れていただきたい。
- ・ ジャストスマイルのように、子どもたちが楽しみながらキーボードを覚えられるシステムがあるといい。Web 上でもキーボード練習のためのものがあるが、アカウントの作成等を学校単位で自由に決めていいのか検討していただきたい。
- ・ 児童用パスワードを各自で変更してしまうと、学校側が変更を把握できる仕組みがなければ、不具合があったときに直せない。小学校段階では子ども自身でのパスワード変更は厳しいのではないか。

（委員C）

- ・ 日本語プログラミング言語「ドリトル」が動く環境を確保したい。Chrome OS にドリトルが対応しているか確認できていない。もし入れられなかった場合、パソコン教室生徒用タブレットへのインストールを許可していただきたい。

（委員長）

- ・ 教科書に載っていて必須のソフトウェアについては検討していただきたい。

（委員D）

- ・ 数学で図形や式を作るソフトウェア等、各教科で必須のソフトウェアを洗い出す必要がある。なくてはならないものについては、議論を重ねることも大切ではあるが、早急に対応していただきたい。

（委員E）

- ・ 授業で Google マップを使おうとしたところ、アクセスができなかった。Google

Earth についても、あると社会科や理科、総合的な学習の時間の中でも活用ができるため、一括で入れていただけるといいのではないかと。

(委員長)

- ・ Google マップについて現状どうなっているのか。

(事務局)

- ・ 確認する。

(委員長)

- ・ アプリだけではなく、インターネットの閲覧等についても学習に支障のない環境を確保していきたい。その洗い出しについてもお願いしたい。

(委員B)

- ・ 学習者用コンピュータからプロジェクタへの投影について、無線で繋げられた方がいいのではないかと。現状ではプロジェクタに繋いでいると学習者用コンピュータを動かすことができないが、無線であれば教員も学習者用コンピュータを持ち歩いて指導にあたることができる。

(委員長)

- ・ 議題について、アプリのインストールだけではなく、通信環境、インターネットのアクセス制限等の学習活動に支障の出ないような対応の検討についても議題に含めていただきたい。

① Google フォームを用いた欠席連絡について (資料6)

(事務局)

- ・ 欠席連絡における学習者用コンピュータの活用については、保護者や地域から要望が多く寄せられている。学校においても、電話対応や、情報共有の時間を削減できるという期待と、実際の運用方法や操作での手間に対する懸念もあると考えている。委員の皆様にはメリット、デメリットについてご議論いただければと思う。
- ・ 資料裏面フォーム例について説明。各項目を入力して送信すると、学校のスプレッドシートにデータが入るという仕組みになっている。
- ・ 実施にあたっては今後校長会とも協議を行っていく。

(委員A)

- ・ 校長会から、学校ごとではなく、市で統一したフォームを用意してほしいという要望があった。検討委員会での協議、先生からの質問を受けたうえで少しでも早く導入できればと考えている。校務の軽減と、保護者にも活用してもら

という観点から議論いただければと思う。

- ・ 欠席連絡は連絡帳ではなくフォームを活用することで、連絡帳を用いての連絡は相談事等のみで済むようになる。

(委員F)

- ・ フォームで連絡した場合、その日ごとのスプレッドシートになるのか、またはデータが蓄積されていくのか。
- ・ 学年・学級ごとの閲覧は可能なのか。
- ・ データはどの程度の期間保管されるのか。

(事務局)

- ・ 日ごとのシートにすると、毎日その日の URL を保護者に通知しなければならないことになり、現実的ではない。
- ・ フォームを分けて作成すれば、学年・学級ごとに分けることはできる。
- ・ 保存期間については、容量がいっぱいになるまで保存が可能なため、無限ではないがほぼすべてのデータを保存できる。学期ごとの保存もできる。シート自体を変更することもできるため、見終わったものを別の場所に保存しておいてシートから消すということも可能である。

(委員長)

- ・ 一つのフォームにつき一つの URL が紐づけられているという認識でよいか。

(事務局)

- ・ はい。

(委員G)

- ・ 私の所属する学校では、Google フォームによる欠席連絡を昨年度2月頃から一部の学級で開始した。設定次第では、体温37度以上の児童を赤で表示することもできるため、赤色で表示された児童の兄弟も欠席にさせる等の対応がとれる。今年度から全学級で導入しているが、今のところ問題なく使用できている。見ている限り導入により欠席連絡の負担が軽減されているようである。

(委員長)

- ・ 問題なく使えているということか。

(委員G)

- ・ はい。記入漏れや出席番号、氏名の誤りも時折見られるが、養護の先生と連携しながら問題なく活用できているようである。

(委員長)

- ・ 誤記入等あった場合に誰から来た情報が特定することはできるのか。

(委員G)

- ・ 特定はできない。本人がいる場合は本人に聞き、欠席の場合は連絡する。

(事務局)

- ・ 必須の質問事項を指定し記入がないとエラーになるよう設定することができる。

(委員H)

- ・ 連絡をとる必要がなくなるという点はシステムとして非常に便利だと感じる。
- ・ 運用が始まると保護者は電話連絡や連絡帳での連絡はよほどのことがないとしづらくなってしまう。したがって、担任への連絡を一言入力できる欄があると、学校側もアンテナを張って後で電話するなどの対応がとれる。

(委員A)

- ・ そういった欄を作ることは可能である。ただし、文字数制限をしなければ、このシステムで長文連絡を可能にしてしまうと対応が困難になる。そのため、このフォームは欠席連絡関係に特化をし、それ以外の相談事等については連絡帳に書いていただいた方が担任とのコミュニケーションもとれる。朝の事務の軽減になるのであればコメント欄を設けるのはいいのではないか。

(委員長)

- ・ 委員Gの学校にはコメント欄はあるのか。

(委員G)

- ・ ある。文字数は制限していないが、長文を書く方は今のところはいない。
- ・ 通勤時間を使って記入することも可能なため、保護者からの評判はいい。

(委員F)

- ・ 欠席連絡の締め切り時間はあるか。
- ・ 保護者ではなく、本人から送られてきた場合の対処法はあるか。

(委員G)

- ・ 後から送ってくる方もいるが、8時5分から8時10分頃締め切りだったかと思われる。その後8時15分から職員が確認している。

(委員I)

- ・ むさしの学校緊急メールでフォームのURLを送付するため、本人が入力すると

というのは防げるのではないか。

(委員 J)

- ・ (資料 6 について) 保護者への連絡で、URL を配布してアクセスしてもらうとはどういう意味か。

(委員 I)

- ・ 資料の「保護者への連絡」というのは、「Google フォームをどのように保護者へ連絡するか」という意味である。「URL の配布」は、むさしの学校緊急メールで URL を送付すれば、保護者は URL をクリックして Google フォームにアクセスできるということである。

(委員長)

- ・ QR コードのついた紙を配布してはどうか。

(委員 I)

- ・ その方法だと、児童生徒からの欠席連絡が可能になってしまう。

(委員 K)

- ・ 先に紙を用いて後日むさしの学校緊急メールで URL を送る旨を周知してから実際にメールを送る方法がいいのではなか。

(委員 I)

- ・ 手段の一つとして Google フォームが加わるのであり、連絡帳でのやりとりをやめるわけではない。長文を書きたい場合には連絡帳を活用し、単に欠席連絡であればフォームに入力していただければと思う。

(委員 L)

- ・ 誰が連絡を集約するのか。

(事務局)

- ・ 常に更新されるため、その時点で入力されたものは手元で見ることができる。

(委員 I)

- ・ 出席を確認した後こういった処理をするかというのは各校でさまざまな対応が想定される。現在のところ Google フォームと校支援が連動する予定はないため、養護教諭がまとめて校支援に入力する等が考えられる。

(委員B)

- ・ Google Classroom の中に欠席連絡のクラスがありそこに連絡が送られてくるイメージか。

(事務局)

- ・ Google Classroom ではなく、Google フォームの URL を配布してアクセスしてもらおう。

(委員B)

- ・ それが共有フォルダになっていれば、校内のどこからでも、どの職員でも見ることができるということか。

(事務局)

- ・ はい。

(委員長)

- ・ 学年、全校等どの程度の範囲で共有するのかというのは学校で決められるのか。養護教諭は全学年見ることができる、担任は自分の学年以外は見ない等。

(事務局)

- ・ 可能である。

(委員B)

- ・ 体温も基本項目に入っているといい。

(委員L)

- ・ 健康チェックカードもシステム化してほしい。

(委員A)

- ・ 欠席連絡とは別のフォームで体温チェックのフォームを作成し、欠席の場合は欠席連絡フォーム、出席の場合は体温チェックフォームに回答をしてもらえば、先生としては便利なのではないか。体温チェックフォームであれば児童生徒本人への送付でもいいと思う。

(委員長)

- ・ 健康チェックカードのシステム化については今後の議題案に加えていただけると次につながるのではないか。

(委員G)

- ・ 私の所属する学校では欠席連絡と健康チェックを兼ねており、毎日全員が回答することになっている。保護者からも紙連絡より楽だと聞いている。

(委員K)

- ・ 忌引きの場合もフォームに入力するのか。

(委員G)

- ・ 忌引きを選べる項目はないため、その他の欄に文章で入力すると思われる。

(事務局)

- ・ 委員Gの学校の資料を共有していただきたい。

(委員M)

- ・ 最初の段階では電話連絡との併用等で混乱するため、来るか来ないかわからないものではなく、委員Gの学校のように毎日全員が送る方がいいかと思う。

(委員K)

- ・ 担当教員がデータを集約・記録するという状況は従前と変わらない。現場でデジタルで受けたものを、担当の教員が責任をもって別のファイルでデジタルで集約し、そのデータから統計を取ったり各児童生徒の欠席日数の動向を調べたりする仕組みになるのではないか。
- ・ 体温によって赤く表示される等のファイルの設定はスプレッドシートの設定であり、Google フォームとは関係はない。スプレッドシートをどう作ってどのように回すのかは各学校で決めることである。

(委員長)

- ・ 学校の自由度はどの程度になるのか。

(委員A)

- ・ 活用するのは学校であるため、シートについては各学校に裁量がある。学校間で情報交換をしながらよりよいものにしていってもらえればと思う。運用開始については、校長会での「スタートは市全体で合わせてほしい」との要望を受け、市主導で行う。欠席の場合のみ送信するのか、または全員体温は毎日送信にするのか等の基本的な形は市である程度決めるが、その後の運用については学校で行っていただく。

(委員長)

- ・ 6月1日までに開始ということだが、早い分には構わないか。

(委員K)

- ・ 5月中は試験運用で協力をお願いする程度にし、本格運用は6月1日からという方法はどうか。

(委員E)

- ・ 6月1日から全校で使用開始でもいいが、6月から、試用期間ではなく本格運用になるのか。

(委員A)

- ・ 5月の校長会で使用開始についてアナウンスし、そこで合意が得られれば、試用期間を設けてもいいのではないか。

(委員E)

- ・ 6月から一学期中は試用期間として運用してみるという考え方もよろしいか。

(委員A)

- ・ 校長会で検討するが、すぐに始めたいという学校もあると思うので、試用も含めて運用開始していくことになるのではないか。

5 その他

(委員E)

- ・ SKYMENUのパスワードは一年ごとに更新されているが、Googleのパスワードは、各自で変更しないとすると卒業まで同じパスワードを使用することになるのか。
- ・ eライブラリのパスワードも発生すると思うが、児童は何種類のパスワードを扱うことになるのか。

(事務局)

- ・ PC教室で使用していたSKYMENUクラスは一年ごとにパスワード更新しているが、今回導入したSKYMENUクラウドについては定期的なパスワード更新は予定していない。Googleパスワードは卒業まで同じパスワードを使用することになる。
- ・ eライブラリは、シングルサインオンという仕組みを設けており、Googleにログインした後であればパスワードを入力せずにログインできる。eライブラリの手前でまなびポケットにログインするが、その際に学校コードの入力が必要になる。このコードについては指導主事作成のマニュアルにも記載があるため、そちらを参照して操作していただきたい。

(委員長)

- ・ つまり、パスワードは各個人に割り当てられた Google、SKYMENU、各学校に割り当てられたまなびポケットの学校コードという認識でよろしいか。

(事務局)

- ・ はい。

(委員N)

- ・ 特別支援教室でタイピング練習をしたものを印刷して持ち帰りたいという要望がある。技術的に難しいか。

(事務局)

- ・ 昨年度検討した際に Chrome OS に対応したプリンタが出回っていない状況だったため購入をしていなかった。プリンタについては特別支援教室の要望も踏まえ、購入するか、どう環境を整えていくか議論していかなければならないと考えている。

(委員A)

- ・ 印刷して持ち帰るとするのは、Google で教材等作成したものを児童に配布して学習させるということか。

(委員N)

- ・ 今まで行っていた指導では、Word や PowerPoint で文字を入力したものをプリントアウトし、持ち帰って成果物として保護者に見てもらっていた。

(委員A)

- ・ 3年生以上については児童に学習者用コンピュータで作業をさせれば Google ドライブの中に学習内容が残るため、それを見てもらえばいいのではないかと。1、2年生については検討する必要がある。

(委員長)

- ・ 委員Gの学校でのその他の取り組みをお聞きしたい。

(委員G)

- ・ 今回議題に上がった欠席連絡については、本校では URL をホームページに掲載している。パスワードのかかるページに URL を掲載して、そのパスワードをむさしの学校緊急メールで通知し、二重のセキュリティ対策ができるようになっている。同様の方法を利用し、コロナ禍で実施できなかった学校公開の動画や

作品展の動画をホームページで公開している。

(委員長)

- ・ 特別支援学級ではいかがか。

(委員O)

- ・ これといった事例はないが、教員が大変そうだと感じる。特別支援学級ではiPadを使用しているため、特別支援学級間で情報共有をしていきたい。